



## 会長挨拶

峰ヶ丘同窓会会長

和賀井 睦夫 (農昭 25 卒)

同窓生の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、峰ヶ丘同窓会のこの1年をふり返りますと、運営面では財務基盤の一層の安定が求められますものの、概ね、順調に会務を執行することができました。ここに改めて会員の皆様のご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

年1回会報発行の機会でありますので、峰ヶ丘同窓会の現況についてご報告させていただきますと、本年3月末現在の現会員は14,992名でありまして、このうち高農、農専の旧制卒業の方々は947名となっております。

これらの皆さんは、国内では、人数の違いはありますが47都道府県全部に居られ、ご活躍でありまして、うち、41の都道府県には、職域もしくは、地域を単位とする支部が結成されており、会員各位が、母校への思いを共有しながら、互いの親睦交流をはかっておられます。

なお、去る4月の熊本地震につきましては、災害に遭われた熊本、大分、両県支部の支部長さん並びに会員の皆様に対しまして、東日本大震災の際と同様、お見舞いと励ましのお気持ちをこめたお見舞状を差し上げた次第であります。

なお、幸いなことに同窓生で、お命にかかわるような罹災者についての情報には接しておりませんので、ご報告させていただきます。

次に同窓会が行っている会務につきましては、理事会、常任理事会の開催、新入生歓迎会、会報及び4年に1回の会員名簿の作成、発行、学生会員、教員会員に対する、勉学、教育、研究支援制度の実施等々であります。特に今年は、2年に1回大学と共催で行っている第4回目のホームカミングデーを、秋の学園祭期間中の11月19日(土)に実施することになりました。目下、実行委員会を中心に準備を進めており、詳細は左2頁に掲載のとおりであります。

この催しが、卒業生にとって恩師、旧友との出会いの場、交流を、絆を更に深め合う場となり、又、新学部開設等新たな改革への道を歩む母校の近況にもふれて頂く貴重な機会になることを願っております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

最後になりますが、去る6月18日に開催した、平成28年度同窓会理事会におきまして、私こと引き続き、会長職を仰せつかりました。私の個人の心情とは、全く異なるものでありましたが、常任理事会そして、理事会という場での、重いご決定でありますので、向う、2年間、最後のご奉公として、お請けすることになりました。

もとより非才、責任の重さを改めて痛感しておりますが、初心に立ちかえり、又、役員の皆様を始め会員の皆様方のご指導、ご協力を頂きまして責務を全うして参りたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。



## 学部長就任挨拶

農学部長

夏秋 知英

同窓生の皆様にはますますご清栄のことと存じます。私こと、平成28年4月より杉田昭栄先生の後を受けて農学部長を務めさせていただいております。夏秋(なつあき)でございます。この度、同窓会報の紙面をお借りいたしまして、会員の皆様にご挨拶とともに農学部の近況を報告させていただきます。

現在の農学部は、平成25年4月より5学科体制(生物資源科学科、応用生命化学科、農業環境工学科、農業経済学科、森林科学科)に移行しました。学生募集定員は平成28年度新設の地域デザイン科学部への協力のため、20名減の195名となりました。

附属農場は平成22年度に全国の共同利用拠点の認定を受け、平成27年度にはさらに継続して5年間の認定を受け、他学部や他大学の食農教育に協力しています。演習林は、平成26年度に、個別の大学演習林としては全国初となる「緑の循環」認証会議(SGEC)の認証を取得し、ブランドとして宇都宮大学の認証材を供給できるようになりました。今後は、東京オリンピックの競技場建設にも木材を供給する予定です。

平成21年度に設立された附属里山科学センターは平成26年に雑草科学研究センターの半分と合体し、「雑草と里山の科学教育研究センター」となりました。雑草研の他の半分は、

バイオサイエンス教育研究センターと合体しました。

国際面では、アメリカ合衆国インディアナ州のPurdue大学農学部と部局間交流協定を平成26年に締結し、毎年、若手の教員や学生が留学しています。Purdue大学は世界大学ランキングの農学部編で第5位という卓越校で、この交流は農学部の発展につながると期待しています。

高大連携では、夏休みなどには高校生向けの講座を数多く開催しています。たとえば、栃木県の農業系高校とは毎年アグリカレッジを開講しています。さらに、埼玉県と群馬県の農業系高校とも協定を結び、高校教育と大学教育の流れをスムーズにする努力を重ねています。このような努力は、平成27年度から始まった科学人材育成プログラム(iP-U)という活動につながっています。

さらに、栃木県や企業と産官学連携を推進し、「とちぎフードイノベーション推進協議会」に参画し、平成26年度に栃木県が「地域イノベーション戦略推進地域」に指定されると同時に、地域イノベーション戦略プログラム「とちぎ特産物の多面的高度利用によるイノベーション～フードバレーとちぎを目指して」の採択により、特任教授や特任研究員を雇用してイチゴの研究を推進しています。

最後に、私は昭和55年(1980年)8月に宇都宮大学農学部農学科に助手として奉職して以来、36年間植物病理学研究室に勤務しております。以前はゆっくりと長期に研究し、学生と濃密な時間を過ごすことが出来ました。しかし、国立大学の法人化前後からは大学全体の予算削減、定員削減、大学改革の推進、地域貢献を柱とした新学部の設置と、まさに激動の時代を迎えております。このような状況の中で2022年に農学部は創立百周年を迎えます。同窓生の皆様方のさらなるご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。